

海外渡航ガイドブック

大阪樟蔭女子大学

※本 PDF では、安全上の問題から特定の電話番号について一部記号に置き換えております。
詳しくは配布された資料をご確認ください。

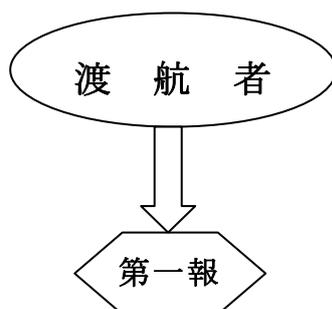
はじめに

近年、学生・教職員の海外留学、海外出張の機会は確実に増加している。海外においては、暴動、内乱、テロ、犯罪、感染症や交通事故など様々な危険があり、海外渡航の機会が増すのに比例し、そのような事件、事故や病気などに巻き込まれる可能性も高くなっている。

本ガイドブックは学生・教職員の皆様が海外において事故なく安全に本来の学業等の目的を果たしていただくための参考に作成した。海外渡航に伴う危機に巻き込まれないために、海外においての心構え、事前の予防対策、及び、不幸にも巻き込まれた場合の対処法などを記しているのので、これから海外渡航をする学生・教職員の皆様は、ぜひ、本ガイドブックを熟読いただきたい。

海外で病気・事故・事件・災害にあったら

まず電話！



国際フリーダイヤル

××××××－××××－××××

日本アイラック安心サポートデスク
(危機管理支援会社)

海外渡航ガイドブック

目 次

I. 危機意識と安全管理

1. 安全管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 4
2. 海外渡航にかかるリスク・・・・・・・・・・・・・・・・P 4

II. 海外渡航にあたっての事前準備

1. 海外渡航にかかる危機への認識・・・・・・・・P 5
2. 健康管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 5
3. 海外傷害保険等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 5
4. 渡航先国に関する情報の事前収集・・・・・・・・P 6
5. 緊急対応リストの携行・・・・・・・・・・・・・・・・P 6

III. 非常事態発生時の対応

1. 平素の心構え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 6
2. 危機発生時の措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 6
3. 危機発生時の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 7

IV. 犯罪、事故に対する安全対策

1. 交通事故・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 7
2. すり・置引き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 7
3. ひったくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 8
4. 路上強盗・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 8
5. 自動車（バス、タクシー）強盗・・・・・・・・P 8
6. 性的犯罪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 9
7. 薬物使用・所持・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 9
8. 健康管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 9
9. 病院のかかり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1 0

V. 参考資料等

1. 参考資料1 緊急対応リスト・・・・・・・・・・・・P 1 1
2. 参考資料2 緊急連絡カード・・・・・・・・・・・・P 1 2
3. 参考資料3 アイラック安心サポートデスク・・・・・・・・P 1 3

I. 危機意識と安全管理

海外におけるリスクは、病気を除いて一般的に最も遭遇の恐れが高いのは交通事故と犯罪被害が挙げられる。海外においては、日本にいる時と同様の意識で生活しては、危険を避けられない可能性が高くなる。まずは、海外にいるという危機意識を持ち、常に安全管理及び健康管理を行うことが重要である。

1. 安全管理（安全対策）

①治安情報の収集と危険の予知

日常的に治安情報（政治情報、犯罪情報等）を収集し、その情報から危険を予知し、回避対策をたてる

②安全対策の履行

危険に対するの予防措置を講ずる

2. 海外渡航にかかるリスク

①緊急事態

・戦乱 ・クーデター ・大規模暴動 ・大規模デモ ・災害 ・火災

②犯罪被害

A 特殊犯罪被害 ・テロ ・誘拐

B 一般犯罪被害 ・強盗 ・すり ・置引き ・ひったくり ・空き巣 ・忍込み
・かっぱらい ・車上狙い ・詐欺 ・性的犯罪 ・薬物

③交通事故

④疾病

・マラリア ・HIV ・デング熱 ・エボラ熱 ・鳥インフルエンザ等

⑤その他

・遭難 ・水難等の事故

※被害者となるリスクの他に、加害者あるいは、凶らずも犯罪者となる危険もあることを認識する。

II. 海外渡航にあたっての事前準備

海外渡航危機管理上、一番重要なのは、予め予想される危機を回避するための事前の対策である。「健康管理」と「安全管理」の両面から以下を参考に危機管理対策を必ずおこなうことが重要である。

1. 海外渡航にかかる危機への認識

オリエンテーションや留学説明会、海外渡航危機管理セミナー等への参加、または海外留学関連リンク集の閲覧などによる情報取得など、出発前に海外渡航にかかる危機管理についての認識を深める。

2. 健康管理

①健康診断、歯科検診

特に長期の留学や出張の前には、健康診断を受け、健康体であることを確認する。持病がある時は、予め主治医に相談する。英文での診断書や内服薬の処方箋があれば安心である。歯科治療は、一般的に海外傷害保険の対象外で、海外での治療は費用がかかるため、必ず渡航前に治療を済ませておく。

②常備薬

海外では気象条件、時差、食習慣、精神的ストレスなどにより、体調を崩す場合が多い。海外では処方箋がないと日本のように市販薬が買えない場合や、体質に合わない場合などがあるので、頭痛薬や風邪薬、消化薬、かゆみ止め、虫よけなどを応急薬として持参するのがよい。粉末の薬は麻薬と誤解される可能性があるので、注意すること。

③予防（ワクチン）接種

海外渡航者の予防接種には2種類ある。①自分自身を感染症から守り、周囲の人への二次感染を防止する場合、②ワクチン接種済証明書を渡航先国から要求される場合。①の場合は、事前に渡航先の感染症情報およびワクチンの情報を収集し、接種について判断する必要がある。早めに（出発3か月以上前から）接種計画をたてるのが望ましい。

◆日本国内で行われている一般的な予防接種

破傷風、A型肝炎、狂犬病、日本脳炎、B型肝炎、ポリオ、黄熱、ジフテリア、麻疹

3. 海外傷害保険等

①学生教育研究災害傷害保険（学研災）

学生に対して、学研災に一括加入しているため、学生が正課中の場合の事故等については、海外においても補償される。

②クレジットカード付帯の海外傷害保険

個人でクレジットカードを持っている場合は、カードに付帯されている海外傷害保険が適用される。但し、カードによっては、補償が自動付帯ではなく、利用を条件としているものもあり、各自で確認が必要である。尚、カードの補償は最大90日の場合がほとんどの為、長期渡航の場合は注意が必要である。

③海外傷害保険、海外留学保険

補償内容を充実させる為、任意の海外傷害保険、海外留学保険の加入を義務付ける。基本的にAIU保険会社とする。

④危機管理支援システム

本学が実施する海外研修プログラムにおいて、緊急事故が発生し、事故処理支援が必要な場合、日本アイラック株式会社の危機管理支援システム（安心サポートデスク）を利用する。

4. 渡航先国に関する情報の事前収集

①渡航先国の理解

渡航先国の政治、経済、歴史、宗教、文化、風俗、習慣を知り理解することは現地の人とのコミュニケーションを円滑にし、無用なトラブルを避けることにつながる。

②治安情勢等の事前収集とリスクの認識

安全対策のためには、外務省海外安全ホームページ、厚生労働省検疫所ホームページや海外安全ホームページ等により、渡航先国における治安情勢、衛生状態、犯罪傾向などの情報を収集し、渡航先国にどのような危険が存在するのか予め把握し、併せて適切な対応についても情報収集しておく。

5. 緊急対応リストの携行

危機に直面した時に救援を求められるように緊急対応リスト<参考資料1>を自ら作成し、携行する。特に<参考資料2>の緊急連絡用カードに、必要事項を記載し携帯する。仮に意識不明など、自分で連絡できない状況におかれた場合の助けになる。

◆アイラック安心サポートデスクの国際フリーダイヤル

◆現地・・・受入先機関関係者、ホームステイ先、現地在外公館、警察、救急車

◆日本・・・家族、大学関係者、保険会社、クレジット会社、航空会社、旅行会社

Ⅲ. 非常事態発生時の対応

1. 平素の心構え

①所在を明確にしておくこと。

○日本国大使館又は総領事館に「在留届」を提出すること。届け出義務は滞在3か月以上だが、それ未満でも「在留届」を提出しておく方が安心である。在外公館は、在留届をもとに、災害やトラブルに巻き込まれた日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護活動に当たる。インターネットでの届け出も可能である。

○家族や大学関係者に、定期的に連絡をいれること。

②携帯電話、固定電話、衛星電話、無線、電子メール等の連絡手段を確保し、連絡網、避難ルート、避難場所を確認しておくこと。

③必要に応じて生活必需品（食料、水など）を備蓄しておくこと。

2. 危機発生時の措置

国外退避、国内退避、自宅待機などが必要となる場合がある。情報を収集し、在外公館と連絡をとり、指示に従うようにする。危険な場所へは、くれぐれも近づかない。

3. 危機発生時の対応

①安否報告を迅速に行うこと。

緊急事態と見られる事態の発生を知ったら、アイラック安心サポートデスクへ連絡をし、在外公館、大学関係、家族等と連絡をとり、自己の安否や事態を報告し、自己の所在を明らかにしておくこと。また、通信手段を確保しておくこと。

②情報の入手、伝達方法を誤らないこと。

現認情報と伝聞情報を区別して報告する

③現地行政の決定事項には従うこと。

④在外先以外の旅行中は所在連絡を励行すること。

IV. 犯罪、事故に対する対処と安全対策

1. 交通事故

①遭遇した場合

- ・万一事故を起こしてしまったら、まず負傷者の救助を優先する。
- ・アイラック安心サポートデスクに連絡する。
- ・事故の現場で、無意識に謝らない。
- ・事故の処理は警察に連絡をとり指示を待つ。

②防止対策

- ・現地の交通ルール、交通事情を知っておく。
- ・車に乗るときは、必ずシートベルトを締める。
- ・できる限り車の運転は避ける。しなくてはならない場合、日本と交通ルール、マナー、道路状況、車の性能などが違うことを認識し十分注意する。

2. すり・置引き

①遭遇した場合

- ・万一被害にあってしまったら、危険なので犯人は追いかけない。
- ・アイラック安心サポートデスクに連絡する。
- ・犯行の状況や犯人の特徴などを覚えておき、警察に届ける。

②防止対策

- ・駅、バス停、市場では人の動きに注意。挙動不審者に注意する。
- ・電車の出入り口付近や車両の端は要注意場所である。
- ・リュック、バッグの持ち方、財布の収納場所に注意する。
- ・携帯電話の携行方法に配慮（ストラップをつけて結着）する。
- ・買い物、バス乗車時は、必要な小銭を用意しておく。

- ・バッグは常に監視できる状態に置く。
- ・後ろを振り向き注意を払うことが、被害を未然に防ぐ。

3. ひったくり

①遭遇した場合

- ・万一被害にあってしまったら、引きずられて危険なので、手を離して決して抵抗しない。
- ・アイラック安心サポートデスクに連絡する。
- ・犯行の状況や犯人の特徴などを覚えておき、警察に届ける。

②防止対策

- ・危険地域・時間帯を把握し立ち回らない。
- ・盗られて困るものは絶対持ち歩かない。
- ・リュック、バックの持ち方に注意する。(たすき掛けは危険)
- ・バック等の携行物は車道側に持たない。
- ・銀行やATM利用の帰りは周囲に注意する。

4. 路上強盗

①遭遇した場合

- ・万一被害にあってしまったら、決して抵抗しない。
- ・アイラック安心サポートデスクに連絡する。
- ・犯行の状況や犯人の特徴などを覚えておき、警察に届ける。

②防止対策

- ・危険地域・時間帯を把握し立ち回らない。
- ・やむを得ず立ち入る場合は、現地の人を同行する。
- ・夜間の単独行動は自粛する。遅くなった場合はタクシーを利用する。
- ・大金・貴重品は持ち歩かない。所持金は分散し「捨て金」を準備しておく。
- ・人通りの多い通りでも、たむろする若者に注意する。

5. 自動車（バス、タクシー）強盗

①遭遇した場合

- ・万一被害にあってしまったら、決して抵抗しない。
- ・アイラック安心サポートデスクに連絡する。
- ・遭遇時には急激な動作は避ける（拳銃の所持に注意）
- ・犯人が下車しても発砲に備え、身体を低くし、その場を無事通過するまで様子を見る。

②防止対策

- ・危険なバス路線を把握して乗車を極力避ける。
- ・バスの乗車位置は目立たない位置に、中央付近が比較的安全である。
- ・所持金は分散し「捨て金」を準備しておく。

- ・無線タクシー、ホテル駐車タクシーは比較的安全。極力、タクシー乗り場から乗車することを心がける。

6. 性的犯罪

性的犯罪の要因を作らないための心構え

- ・派遣先国の社会事情や性習慣を正しく理解する。
- ・自ら被害を招く要因となる次のような行動をとらない。
 - ・軽率な言動、行動
 - ・誤解を招きかねない所作
 - ・目立つ服装、化粧、宝飾品
 - ・夜間の一人歩き
 - ・旅行時の調査不足

①遭遇した場合

- ・レイプ行為に対しては徹底抵抗。但し「命」との価値判断は誤らない。
- ・精神的ケアと医療行為が必要である。

②防止対策

- ・はっきりと「NO」と言える勇気を持つ。あいまいな態度は誤解される。
- ・嫌がらせ、痴漢行為、ストーカーは初期段階での対応が大切である。

7. 薬物使用・所持

日本においては、大麻、覚せい剤、MDMA などの合成麻薬、その他の違法薬物の所持、使用、輸出・輸入、譲渡・譲受、製造、栽培等すべて禁止されています。薬物は1回でも手を出すと依存性があるため、やめられなくなる。また、海外においては薬物乱用には厳しい罰則があり、日本以上に厳しい罰則を科している国が多い。また、麻薬取引に巻き込まれることもある。渡航先で知り合った人に他人へのお土産として物を預かったりして、薬物密輸等で逮捕された例もある。国によっては、終身刑、死刑などが科される場合もあるので、知り合いといえども安易に荷物を預かり国外に運ぶことは避ける。自分で詰めた荷物以外は運ばないという心構えを持つことが大切である。

8. 健康管理

健康管理上の留意点

- ・適度な食事を心がけ、生水、生ものに注意する。
- ・十分な睡眠、休養を心がけ、短期滞在の場合は無理な日程にしがちなので注意する。
- ・感染症、風土病には特に注意する。
- ・常日頃より、現地の医療情報や病院等の情報を確認しておき、いざという時には早めの受診を心がける。
- ・保険会社やクレジットカード会社などの日本語対応相談窓口を利用する。
- ・重い病気や事故などで、現地以外の病院へ緊急移送される場合も想定し、海外傷害保険には加入しておく。

◆病院のかかり方

海外では救急車が有料、又病院が予約制のみの場合があるので注意が必要。

渡航先の医療情報を「外務省：在外公館医務官情報 世界の医療情報」で確認。

○海外傷害保険に加入の場合

- ① 医療アシスタントサービス等に連絡し、病院紹介あるいは予約、必要な場合は通訳のサービスを受ける。
- ② 病院に予約の上、受付カウンターへ行き、海外傷害保険証等を提示する。
- ③ 病院が案内する所定の書類へ記入する。
- ④ キャッシュレスで受診する。キャッシュレスで受診しない（できない）場合は、領収書等を保険会社に提出し、還付を受ける。

○緊急（一刻を争う病気等）の場合は、救急車を呼んで（呼んでもらって）病院に運んでもらうとともに、可能ならアイラック安心サポートデスクに連絡し、現地の知人等に連絡する。

意識がない状態に陥った場合に備え、緊急連絡用カード<参考資料 2>を常時携帯すること。

緊急対応リスト

連絡先	電話番号等記入欄
●アイラック安心サポート	
① 携帯から国際フリーダイヤルが利用できない場合は、固定電話を利用	
② ①で繋がらない場合は国際コレクトコールでかける	
③ ②で繋がらない場合は直通国際電話（有料）からかける	
① 国際フリーダイヤル（無料）	××××-×××-×××（ニュージ-ランド [®] は携帯対応不可）
② 国際コレクトコール	A) ××××-×××-××× B) ×××-×××
A) B) いずれの番号でも日本人オペレーターにつながるので、下記の電話番号をオペレーターに伝える。	
アイラック安心サポートデスク××-×××-×××	
② 直通国際電話（有料）	××-×××-×××-×××
※相談の仕方	① 学校名 ② 氏名 ③ 渡航先国・都市 ④ 出国・帰国日を告げた後、相談する
●現地連絡先	
受入先機関関係者	
ホームステイ先	
現地在外公館	
警察	
救急車	
●日本連絡先	
家族	
大学・国際交流	
大学・指導教員	
保険会社	
クレジットカード会社	
航空会社	
旅行会社	
●その他	

緊急連絡カード

Emergency Contact Card	Emergency Contact Card
Name in Japanese	<Local Contact>
Name in Latin Alphabet	Place of Stay
Date of Birth	Phone Number
Passport Number	Contact Person Relationship
Nationality	Phone Number
Blood Type A B O AB	<Contact in Japan>
Allergies	Contact Person Relationship
Previous Illness or Medications	Phone(home)
	Phone(Mobile)
Osaka Shoin Women's University, Japan	Osaka Shoin Women's University, Japan

※必要事項を記入し、切り取って、真ん中の線で二つ折りにする。

※財布・カード入れなどに入れて常時携帯すること。

< 記入例 >

Emergency Contact Card	Emergency Contact Card
Name in Japanese: 樟蔭 花子	<Local Contact>
Name in Latin Alphabet: SHOIN. Hanako	Place of Stay: C/O Mr. × × ×
Date of Birth: Day 18 Month Oct Year 1992	Phone Number: ×××-×××-×××
Passport Number: T0*****	Contact Person:Mr. × × × Relationship:Host father
Nationality: Japanese	Phone Number: ×××-×××-×××
Blood Type: O (Rh +)	<Contact in Japan>
Allergies: Corn, Egg	Contact Person:SHOIN. Taro Relationship:Father
Previous Illness or Medications: hay fever	Phone(home) +81-3-****-****
	Phone(Mobile)+81-80-****-****
Osaka Shoin Women's University, Japan	Osaka Shoin Women's University, Japan